

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部布施学術講演会

講師 ジュリアン・コノリー博士

Professor Julian Connolly (The University of Virginia)

ロシア文学における〈ルサールカ〉（水の精）の役割

The Role of the Rusalka in Russian Literature

講義は英語、通訳なし。討論はロシア語も可。



日時 2005年12月6日(火) 午後5時～6時30分

場所 東京大学(本郷キャンパス)

法文1号館3階310番教室

113 0033 東京都文京区本郷7 3 1

交通 地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷3丁目」、南北線「東大前」、千代田線「根津」など下車、いずれも徒歩10分

東大構内案内図は http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_01_j.html

東大本郷キャンパスへのアクセス http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html

このたび来日されるアメリカのロシア文学者、ジュリアン・コノリー氏を迎えて講演会を開催するのはこびとなりました。コノリー教授はヴァージニア大学教授で、プーニンについての著書があるほか、特にナボコフ研究にかけて世界的権威として知られています。今回の講演は、ロシアのフォークロアに現れる女性の「水の精」ルサールカが、プーシキン、ゴーゴリ、レールモントフ、ナボコフなどの作品でどのような役割を果たしているかを分析したいへん興味深いものです。専門的ご関心をお持ちの方のご来聴を歓迎いたします。

ジュリアン・コノリー氏の主な業績(いずれも英語)

著書

『親密なよそ者 19世紀ロシア文学における悪魔との出会い』(2001)

『ナボコフの初期小説 自己と他者のパターン』(1992)

『イワン・プーニン』(1982)

編書

『ケンブリッジ版ナボコフ必携』(2005)
『ナボコフとその小説 新しいパースペクティヴ』(1999)
『「断頭台への招待」批評的ガイド』(1997)

主催 東京大学文学部西洋近代文学・スラヴ文学研究室
助成 東京大学文学部布施学術基金
協力 京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE「翻訳」の諸相」研究班
日本ナボコフ協会

問い合わせ先

東京大学人文社会系研究科・文学部スラヴ文学研究室 沼野充義
電話 03(5841)3847 Fax 03(5841)8967